

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 関西国際大学 |
| 設置者名 | 学校法人濱名山手学院 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---------------------------------|-----------|-----------------------|---------|------|-----|-------------|------|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 保健医療学部 | 看護学科 | 夜・通信 | 10 | | 96 | 106 | 13 | |
| 教育学部 | 教育福祉学科 | 夜・通信 | | | 84 | 94 | 13 | |
| 経営学部 | 経営学科 | 夜・通信 | | | 36 | 46 | 13 | |
| 国際コミュニケーション学部 | グローバルコミュニケーション学科(英語コミュニケーション学科) | 夜・通信 | | | 6 | 16 | 13 | |
| | 観光学科 | 夜・通信 | | | 30 | 40 | 13 | |
| グローバル学部 | グローバル学科 | 夜・通信 | | | 18 | 28 | 13 | |
| 心理学部(人間科学部) | 心理学科(人間心理学科) | 夜・通信 | | | 58 | 68 | 13 | |
| 社会学部 | 社会学科 | 夜・通信 | | | 6 | 16 | 13 | |
| (備考) 人間科学部人間心理学科は、2021年度より心理学部心理学科へ名称変更 2021年4月現代社会学部の改組により社会学部社会学科、国際コミュニケーション学部観光学科を設置 2023年度より国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科へ名称変更 | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| 大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 関西国際大学 |
| 設置者名 | 学校法人濱名山手学院 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| https://www.kuins.ac.jp/about/kuis_information/_8256.html |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|---------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 非常勤 | 株式会社内田洋行代表取締役 | 令和7年5月26日定時評議員会終結の時から4年 | 教育の質の向上 I Tの活用 地域社会との連携 |
| 非常勤 | 神戸新聞社代表取締役 | 令和7年5月26日定時評議員会終結の時から4年 | 地域との連携強化 広報活動の推進 |
| 非常勤 | 国際医療福祉大学常務執行役員・事務局長 | 令和7年5月26日定時評議員会終結の時から4年 | 大学運営の専門知識の活用 戦略的意思決定 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 関西国際大学 |
| 設置者名 | 学校法人濱名山手学院 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書の作成過程</p> <p>シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目 ● 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など） ● 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など ● 履修制限がある場合の選抜の方法等 ● 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されているDPを踏まえ、主語を学生にして記載 ● 学習目標とDPとの関連 下記のポイントについて記載 <ol style="list-style-type: none"> ① 学科のDP（ディプロマポリシー）との関連性について記載する。 ② 学習目標は客観的に評価することが可能な内容とする。 ③ 1つの文章に1つの目標を示す。（複文とならないように） ④ 評価の条件や基準を具体的に明示する。 ● 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となるURLや論文名 ● 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。 ● オフィスアワーの曜日時限についての記載。 <p>授業計画書の作成・公表時期</p> <p>シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われる全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。</p> <p>公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | <p>大学のホームページにより公開</p> <p>https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/syllabus.html</p> |

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUISs 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 多様性理解、(2) コミュニケーション力、(5) 自律性、(6) 社会的貢献性の評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定した KUISs 学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(4) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(4) に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多元的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

① 測定の方法(例: 中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等)

② 基準の配分(例: テスト60%、レポート20%、毎回のコメント10%、eポートフォリオ10%)

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか(例: 中間テスト(日時)、小レポート(毎回))を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

・成績評価は、授業途中の評価(中間試験等)だけでなく、総括試験、本試験など総括的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ明示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。

・出席点は評価に含めてはいけない(授業への出席は前提)。

・情意的領域の観点を評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考の際に資料としている。

◆成績評価と科目GP

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

| 成績評価 (100点満点) | 科目GP (グレード・ポイント) |
|---------------|------------------|
| 90点、100点 | 4 |
| 80点 | 3 |
| 70点 | 2 |
| 60点 | 1 |
| 60点未満 | 0 |

◆GPAの計算方法

科目GPに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA (グレード・ポイント・アベレージ) = \frac{(A \text{ 科目 } GP \times A \text{ 科目 単位数}) + (B \text{ 科目 } GP \times B \text{ 科目 単位数}) + (C \text{ 科目 } GP \times C \text{ 科目 単位数}) + \dots}{\text{登録科目総単位数}}$$

◆GPAと学習指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期（夏、冬学期は含まない）GPAによって、履修登録の上限単位数が増減する。
- ② 連続する2学期（夏・冬学期を除く）の各学期のGPAが共に1.00未満の者には、学部長あるいは学科長並びにアドバイザーがご家族・保証人同席の上で、嚴重注意を行う。
- ③ 入学以来の累積GPAが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間及び特別履修期間（*2022年度以降の学生は対象外）を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積GPAが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、以下のいずれかの要件を満たした者は、「卒業研究」を登録することが出来る。
 - ア 直前の年間のGPAが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学習態度に改善があった者
 - イ 卒業研究登録資格認定試験に合格した者
 - ウ 休学期間を除く在学期間が3年6か月以上に達している者で、連続する春・夏学期または秋・冬学期において、当該期間のGPAが1.60以上かつ16単位以上を修得し、学習態度に改善があった者
- ④（2022年度以降の学生は対象外）1年次秋学期以降で、連続する春・夏・秋・冬・春・夏学期または秋・冬・春・夏・秋・冬学期において当該期間の累積GPAが1.00未満の者には、学部長が退学を勧告する。但し、本人およびアドバイザーの意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではない。また、学修の継続を希望する者は、特別履修期間として在学することができる。

| | |
|---|--|
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | 大学ホームページにより公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html |
| 4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 | |
| <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学においては、『他者を尊敬しつつ、主体的・能動的に自らの人生を切り拓く』ことができる人間を世界に送り出すことをめざし、具体的には、「Communication (対話、伝達)、Consideration (熟慮、考察、思いやり) & Commitment (参画、貢献)を価値基準とし、この“3つのC”を実行できる人間の育成を「学院教育ミッション」として、本学の各学位プログラムの課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、学則第 1 条に定める「学校法人濱名山手学院の教育ミッションに基づき、グローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティづくりに向けて総合的に活用できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、同第1条の2に定める下記のカ・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>(1) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) 多様性、公平性、包摂性の視点 (Diversity, Equity & Inclusion; DE & I)を持ち、異なる文化や価値観を受け容れ、尊重し、多様な文化背景及び社会背景を持つ人々と共生及び協働できる。</p> <p>(2) コミュニケーション力 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。</p> <p>(3) 課題発見・解決力 根拠に基づいて、課題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身に付け、課題を解決することができる。</p> <p>(4) 専門的知識・技能の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。</p> <p>(5) 自律的で主体的な態度(自律性) 自分の目標を持ち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。</p> <p>(6) 社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。</p> <p>上記、卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(4) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。</p> <p>なお、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2 年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4 年の卒業研究を履修するための要件としている。</p> | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | (大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html |

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 関西国際大学 |
| 設置者名 | 学校法人濱名山手学院 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|------------------|---|
| 貸借対照表 | 大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/finance.html |
| 収支計算書又は 損益計算書 | 同上 |
| 財産目録 | 同上 |
| 事業報告書 | 同上 |
| 監事による監査 報告(書) | 同上 |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|---|
| 単年度計画(名称:2025年度事業計画 対象年度:2025年度) |
| 公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/action_plan.html |
| 中長期計画(名称:学校法人濱名山手学院第二次中期計画 対象年度:2025~2027) |
| 公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/action_plan.html |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/hyoka.html : |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|---|
| 公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/hyoka.html |
|---|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 保健医療学部看護学科 |
| 教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html |
| 看護学に係る専門知識を習得し、豊かな人間愛と倫理観を育み、様々な環境下で生活するあらゆる健康レベルにある人々の生命と尊厳を守り、最適な健康状態に導き、人、地域、社会、時代が求める看護サービスを追求できる看護専門職者を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html |
| 看護学科では、126 単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（看護学）の学位を授与します。この基準では、看護学における専門的知識、技術、態度とグローバルな視野に立った教養を基盤とし、学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の 6 つの能力及び資質を総合的に活用して、科学的思考に基づくヒューマンケアを実践できる素養を持つことを求めています。 6 つの能力・資質 [Communication；情報収集・意見調整・発信] (1) 多様性理解 様々な文化や価値観を持つ人々を理解し、看護の対象者の違いを尊重して行動できる。 (2) コミュニケーション力 対象者の思いや考えを理解し、自分の考えを論理的かつ工夫して伝えることができる。 [Consideration；熟慮・考察・思いやり] (3) 課題発見・解決力 看護の対象者の情報を収集・分析し、課題を発見し解決のための計画を立案・実施できる。 (4) 専門的知識・技能の活用力 看護の現象を知識や技術を用いて説明し、個別性に合わせて活用できる。 [Commitment；参画・貢献] (5) 自律性 看護職を目指す者として、責任を持って意欲的に行動できる。 (6) 社会的貢献性 社会のルールを守り、他者と協働しながら、国際感覚を持った看護職として社会に貢献できる。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html |
| 看護学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。 1) 教育内容 看護学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成され、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、科学的思考に基づいたヒューマンケアを実践できる看護専門職者の育成を目指します。 ・体系的な編成 全科目にナンバリングを行い、内容や難易度を明確化。履修の優先度を提示して、計画 |

的な学びを支援します。

・実践的な学び

教室での学びに加え、基礎看護実習、領域別実習、統合看護実習などを通じて理論と実践を統合します。また、看護グローバル専攻では海外研修を取り入れ、異文化対応能力を育成します。

(1) 基盤教育科目

大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます：

・Communication 科目群

語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。

・Consideration 科目群

「人間学」や「SDGsと持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・Commitment 科目群

国外の経験学習（グローバルスタディ）を通じて、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、看護学で求められる知識や技能の基礎を学びます。看護学に求められる知識や技能を段階的に修得します。

・1年次

医学、社会学、心理学を学び、人を心身の両面から理解。基礎看護学の講義・演習・実習を通じて、看護の基礎的知識と技術を習得します。

・2年次

領域別看護学の講義や演習を行い、学生の希望や適性に応じて以下の専攻を選択します：

(ア) 看護学専攻

科学的思考に基づいたヒューマンケアを学びます。

(イ) 看護グローバル専攻

文化背景の異なる対象者への看護実践の基礎を学びます。

・3年次

領域別実習で、大学で学んだ知識を現場で実践できるよう学びを深めます。看護グローバル専攻では海外研修を通じ、異文化背景が看護に与える影響を学びます。

・4年次

卒業研究および統合看護実習を通じて、専門教育内容を統合・総合化します。看護グローバル専攻では海外研修の振り返りや報告を通じて異文化対応能力を強化します。

・資格取得と専門分野への対応

助産師コース・保健師コースは、3年次に学生の希望や適性を考慮して選抜し、国家試験受験資格取得に必要な科目を履修します。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

・グループワークやディスカッションを活用し、学生が主体的・能動的に学べる環境を提供します。

・領域別実習や統合実習、グローバルスタディを通じて課題発見・解決能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

・学期中・学期末に複数回の評価を行い、答案やレポートを返却して学習課題を明確にします。

・学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて理解を深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

・生成AIを授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断

力を養います。

- ・LMSを利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

- ・学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達成を目指します。

(5) 国家試験対策

- ・国家試験受験資格に必要な専門的知識を1年次から段階的に学びます。
- ・eラーニングを活用した自己学習の推進や外部テスト結果のモニタリングを行い、模擬試験や対策時間を設け、計画的に学修を進めます。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

- ・各科目では、テスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。
- ・学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握して補習やフィードバックを提供します。
- ・学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認

- ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。
- ・教員との面談を通じて成長を確認し、次の学修目標を設定します。

(3) 2年次終了時の到達確認試験

- ・2年次終了時に、「卒業研究」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。
- ・不合格者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 統合看護学実習及び卒業研究による総合的評価

- ・統合看護学実習および看護学に関わる課題をテーマとする「卒業研究（必修）」を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。
- ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html>）

（求める学生像）

看護学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

(1) 知識・技能

- ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。
- ・国語（現代の国語、言語文化）、英語での基礎的な言語運用能力（英検3級程度）を身につけている。
- ・看護学を学ぶ基礎となる理科（生物基礎または化学基礎）や数学（数学I・数学A）の基礎的知識を修身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・医療や看護に関連する身近な課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

(3) 主体性・多様性・協働性

- ・看護学に強い関心を持ち、社会でその知識や技術を活かす意欲を持っている。
- ・グループ学習や課外活動、ボランティア活動の経験があり、他者と協力して課題を解

決する能力を持っている。

(4) 入学前教育への取り組み

- ・e ラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。

学部等名 教育学部教育福祉学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html>

グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、教育や福祉の学びを通して、一人ひとりの立場を理解し、人間愛にあふれた専門的職業人を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html>

教育福祉学科では、126 単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（教育福祉学）の学位を授与します。この基準では、教育学・社会福祉学の専門的知識と技能、グローバルな視野に立った教養を基盤とし、学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の 6 つの能力及び資質を総合的に活用して、教育・福祉の専門職として実践できる素養を持つことを求めています。

6 つの能力・資質

[Communication；情報収集・意見調整・発信]

(1) 多様性理解

教育・社会福祉従事者として、多様な文化や価値観を受け入れ、地域、保護者、他職種等と協働できる。

(2) コミュニケーション力

教育・社会福祉従事者として相互の立場を尊重し、人間関係を構築できる。

[Consideration；熟慮・考察・思いやり]

(3) 課題発見・解決力

現場の課題を発見し、必要な知識や資源を活用して適切な解決方法を計画・実践できる。

(4) 専門的知識・技能の活用力

教育学や社会福祉学の知識を総合的かつ包括的に活用できる。

[Commitment；参画・貢献]

(5) 自律性

教員・社会福祉従事者としての使命と目標を持ち、自律的・意欲的に業務に取り組むことができる。

(6) 社会的貢献性

社会の動向をふまえた実践力を身につけ、地域社会や他者に責任ある行動をとることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html>

教育福祉学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

教育福祉学科の教育課程は、基盤教育科目、専門教育科目、およびその他必要な科目で構成されており、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、教育・福祉の専門職として必要な知識と実践力を養成します。

- ・体系的な編成

全科目にナンバリングを行い、内容や難易度を明確化。履修の優先度を提示して、計画的な学びを支援します。

・実践的な学び

教室での学びに加え、実習やインターンシップなど現場経験を通じて理論と実践を統合します。

(1) 基盤教育科目

大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます：

・Communication 科目群

語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。

・Consideration 科目群

「人間学」や「SDGs と持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・Commitment 科目群

国内外での経験学習（グローバルスタディ、サービ斯拉ーニング、コーオプ・プログラム）を通じて、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は、基礎科目、専攻コア科目、展開科目の3つの科目群で構成され、次の2専攻に分かれます：

(ア) こども学専攻

- ・教育・保育コース：保育士資格取得を目指し、保育や教育の実践力を養成します。
- ・教育専修コース：小学校や特別支援学校教員に必要な知識・技能を学びます。
- ・初等英語コース：英語教育の知識を身につけ、国際的視点を持った教育者を育成します。

(イ) 福祉学専攻

- ・社会福祉専修コース：社会福祉士を目指し、福祉現場に必要な実践力を学びます。
- ・福祉・保育コース：こども家庭福祉の専門職として必要な技能を学びます。
- ・実践的能力の育成

①各専攻で取得可能な資格（保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭、社会福祉士など）に必要な科目を体系的に配置しています。

②現場に必要な特別支援教育や初等教育における英語教育、防災士資格取得に関連する科目を提供します。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

- ・グループワークやディスカッションを活用し、学生が主体的・能動的に学べる環境を提供します。
- ・サービ斯拉ーニングやコーオプ・プログラム、グローバルスタディなどの経験学習を通じて、課題発見・解決能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

- ・学期中・学期末に複数回の評価を行い、答案やレポートを返却して学習課題を明確にします。
- ・学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて理解を深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

- ・生成AIを授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断力を養います。
- ・LMSを利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

- ・学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達

成を目指します。

(5) 採用試験・国家試験対策

- ・教員採用試験や保育者資格試験、社会福祉士国家試験に必要な専門知識を確認するため、外部テストやeラーニングを活用した学習支援を実施します。
- ・学科教員による採用試験・国家試験対策の時間を設け、2年次から段階的なプログラムを実施します。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

- ・各科目では、テスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。
- ・学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握し、補習やフィードバックを提供します。
- ・学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認

- ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。
- ・教員との面談を通じて成長を確認し、次の学修目標を設定します。

(3) 2年次終了時の到達確認試験

- ・2年次終了時に、「卒業研究」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。
- ・不合格者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究による総合的評価

- ・「卒業研究（必修）」を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。
- ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html>

（求める学生像）

教育福祉学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

(1) 知識・技能

- ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。
- ・教育、保育、社会福祉の専門知識を学ぶ基礎となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定3級程度）や表現力を身につけている。
- ・基礎的な英語力（英検3級程度）及び数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・教育、保育、社会福祉に関連する課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

(3) 主体性・多様性・協働性

- ・教育、保育、社会福祉分野で専門性の高い仕事に就く意欲がある。
- ・課外活動やボランティア活動の経験を持ち、他者と協力して課題に取り組むことができる。
- ・グループ学習を通じて、必要な情報を収集・整理し、自分たちの提案をすることができる。
- ・情報を選択的に収集し、わかりやすく構成して他者に伝えることができる。

(4) 入学前教育への取り組み

- ・eラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。

| |
|---|
| 学部等名 経営学部経営学科 |
| 教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html |
| グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、経営に関する実践的な知識・技能を総合的に活用し、社会や組織活動に貢献できる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html |
| 経営学科では、126単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（経営学）の学位を授与します。この基準では、グローバルな視野に立った教養と専門的な知識・技能、さらに学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の6つの能力及び資質を総合的に活用し、営利・非営利の組織のマネジメントができる素養を育成することを重視しています。 6つの能力・資質 [Communication；情報収集・意見調整・発信] (1) 多様性理解 異なる文化や価値観を受け容れ、尊重して共生・協働できる。 (2) コミュニケーション力 他者の思いや考えを理解し、意見を交わし調整できる。 [Consideration；熟慮・考察・思いやり] (3) 課題発見・解決力 情報を収集・分析し、根拠に基づいて課題を発見し、解決・提案できる。 (4) 専門的知識・技能の活用力 マネジメントの知識や技能を状況に応じて適切に活用できる。 [Commitment；参画・貢献] (5) 自律性 目標や目的の達成のために責任をもって意欲的に行動できる。 (6) 社会的貢献性 社会のルールを守りつつ、他者と協働して目的達成に貢献できる。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html |
| 経営学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫しながら達成状況を評価していきます。 1) 教育内容 経営学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成されており、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、グローバルな視点と実践的なマネジメント能力を育成します。 ・体系的な編成 基盤教育科目と専門教育科目を基礎から応用へ段階的に学べるよう編成。科目にはナンバリングを行い、履修の優先度を明示します。 ・実践的な学び 教室での学びと現場での経験を結びつけ、理論と実践を統合します。 (1) 基盤教育科目 大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます： ・Communication 科目群 語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。 ・Consideration 科目群 「人間学」や「SDGsと持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。 |

また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・Commitment 科目群

国内外での経験学習（グローバルスタディ、サービスラーニング、コーオプ・プログラム）を通じて、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

組織や集団のマネジメントに必要な基礎知識と実践方法を学びます：

- ・1年次に経営、経済、マーケティング、ファイナンス、統計などの基礎を学び、希望や適性に応じて以下の専攻を選択します：

(ア) ビジネスデザイン専攻

効果的なマーケティング戦略と組織運営の方法を学びます。

(イ) 地域マネジメント専攻

地域活性化や持続可能な社会づくりを学びます。

- ・2年次以降、専攻科目を体系的に学び、現場での学びを統合していきます。
- ・コーオプ・プログラムでは企業や団体と連携し、現実の課題に取り組みます。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

- ・グループワークやディスカッションを活用し、学生が主体的・能動的に学べる環境を提供します。
- ・サービスラーニングやコーオプ・プログラムなどの経験学習を通じて、課題発見・解決能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

- ・学期中・学期末の複数回の評価を実施し、答案やレポートを返却して学習課題を明確にします。
- ・学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

- ・生成AIを授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断力を養います。
- ・LMSを利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

- ・学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

- ・各科目では、テスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。
- ・学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握して補習やフィードバックを提供します。
- ・学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認

- ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。
- ・教員との面談を通じて成長を確認し、次の学修目標を設定します。

(3) 2年次終了時の到達確認試験

- ・2年次終了時に、「卒業研究」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。
- ・不合格の場合は再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究による総合的評価

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・組織や集団のマネジメントに関する課題をテーマとする「卒業研究（必修）」を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。 ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html</p> |
| <p>（求める学生像） 経営学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「カリキュラム・ポリシー」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。 （高等学校での修得が望ましい水準）</p> <p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。 ・国語（現代の国語、言語文化）、英語での基礎的な言語運用能力（英検3級程度）及び数学（数学Ⅰ・数学A）の基礎的な知識を身につけている。 <p>(2) 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の身近な問題について筋道を立てて考え、説明することができる。 <p>(3) 主体性・多様性・協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学やマネジメントに興味を持ち、学びを社会で活かしたいという意欲がある。 ・グループ学習や課外活動、ボランティア活動の経験があり、他者と協力して課題を解決することができる。 <p>(4) 入学前教育への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。 |
| <p>学部等名 グローバル学部グローバル学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html</p> |
| <p>グローバル社会や地域社会が直面する諸問題に関して、社会学、経営学、政治・経済などの科学的視点から課題発見・解決する能力、語学力を含む高度なコミュニケーション能力、“Diversity, Equity and Inclusion”（DE&I：多様性、公平性、包括性）の視点をもって、グローバル社会に貢献する人材を育成することを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/folder442/global/3policy.html</p> |
| <p>グローバル学科では、126単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（国際学）の学位を授与します。この基準では、社会学や経営学などの科学的視点に基づき、グローバル社会や地域社会の課題解決に寄与するための専門的知識や技能を活用し、「学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の6つの能力及び資質を総合的に発揮する素養を求めています。</p> <p>6つの能力・資質</p> <p>[Communication；情報収集・意見調整・発信]</p> <p>(1) 多様性理解 異なる文化や価値観を尊重し、多様な背景を持つ人々と共生・協働できる。</p> <p>(2) コミュニケーション力 日本語と英語を用いたコミュニケーション能力を持ち、根拠に基づく論理的な主張ができる。</p> <p>[Consideration；熟慮・考察・思いやり]</p> <p>(3) 課題発見・解決力 グローバル社会や地域社会における社会的・文化的な課題を科学的視点から発見・解決できる。</p> |

(4) 専門的知識・技能の活用力

多様な存在が共生できる社会構築のために必要な知識・技能を修得し、活用できる。

[Commitment ; 参画・貢献]

(5) 自律性

自ら主体的に計画を立て、実行し、ふりかえりながら取り組むことができる。

(6) 社会的貢献性

世界や地域の人々に貢献し、多くの人の協働を促すことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/folder442/global/3policy.html>

グローバル学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫しながら達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

グローバル学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成され、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、多文化共生や国際的課題解決に対応できる人材を育成します。

・体系的な編成

科目にはナンバリングを行い、内容や難易度を明確化。履修の優先度を示し、計画的な学びを支援します。

・実践的な学び

教室での学びに加え、国内外での学外学習やプロジェクト型学習を通じ、理論と実践を統合します。

(1) 基盤教育科目

大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます：

・Communication 科目群

語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。

・Consideration 科目群

「人間学」や「SDGsと持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・Commitment 科目群

国内外の経験学習（グローバルスタディ、サービ斯拉ーニング、コーオプ・プログラム）を通じて、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は、基礎科目、基幹科目、展開科目、総合演習科目の4つで構成され、以下の3つのコースから選択または横断的に学びます：

(ア) 国際ビジネスコース

国際的なビジネス展開に必要なマーケティングや組織マネジメントを学びます。

(イ) 日本語・日本文化コース

日本文化や日本語の構造、日本語教授法を学び、日本文化の発信や地域振興に貢献します。

(ウ) 観光まちづくりコース

観光を中心としたまちづくりに関する知識を学び、地域メディアの活用方法や次世代のインバウンド観光について探求します。

・基礎科目

語学力や多様性理解など、グローバル学科の基盤となるスキルを修得します。

・基幹科目

国際社会、地域社会、異文化コミュニケーションなど各コースに共通する内容を学びます。

・展開科目

基幹科目で学んだ内容を発展させ、各コースに特化した知識を深めます。

・総合演習科目

「グローバル工房プロジェクト」では、プロジェクト・マネジメントの基礎を学び、グループでのシミュレーションや実践を通じて経験を積みます。「卒業研究」では、テーマを設定し、調査・研究を行い、成果物を作成します。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

- ・グループワークやディスカッションを活用し、学生が主体的・能動的に学べる環境を提供します。
- ・サービスマーケティングやコーオプ・プログラム、グローバルスタディを通じて、現実の課題を発見・解決する能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

- ・学期中・学期末に複数回の評価を行い、答案やレポートを返却して学習課題を明確化します。
- ・学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて学びを深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

- ・生成AIを授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断力を養います。
- ・LMSを利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

- ・学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

- ・各科目でテスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。
- ・学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握して補習やフィードバックを提供します。
- ・学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認

- ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。
- ・教員との面談を通じて成長を確認し、次の学修目標を設定します。

(3) 2年次終了時の到達確認試験

- ・2年次終了時に、「卒業研究」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。
- ・不合格者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究による総合的評価

- ・グローバルに関わる課題をテーマとした卒業研究（必修）を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。
- ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/folder442/global/3policy.html>

（求める学生像）

グローバル学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

| |
|--|
| <p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。 ・日本語運用能力（現代の国語、言語文化）を修得し、漢字検定3級程度以上の基礎力を身につけている。 ・基礎的英語力（英検準2級程度）を持ち、日常会話やまとまった英文の読み書きができる。 ・基礎的数学力（数学I・数学A程度）を身につけている。 <p>(2) 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス、国際関係、文化、教育に関連した社会の問題について、知識や情報を基に筋道を立てて考え、その結果を説明する能力を持っている。 <p>(3) 主体性・多様性・協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習や課外活動、ボランティア活動の経験があり、他者と協力して課題を達成する能力を持っている。 ・国際社会でビジネス、国際関係、文化、教育に関連した分野で活躍したいという意欲を持っている。 <p>海外留学に積極的に取り組む意欲がある。</p> <p>(4) 入学前教育への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。 |
|--|

| |
|---|
| <p>学部等名 心理学部心理学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開）</p> <p>https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html</p> |
| <p>人間の心理や行動ならびに社会生活を多視点から理解するための専門知識を習得し、人間や社会について科学的に理解し、問題の発見と解決を図る能力を持ち社会に貢献できる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）</p> <p>https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html</p> |
| <p>心理学科では、126単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（行動科学）の学位を授与します。この基準では、心理学に関する専門的知識や技能とグローバルな視野に立った教養を基盤とし、学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の6つの能力及び資質を総合的に活用して、広く社会に貢献する素養を持つことを求めています。</p> <p>6つの能力・資質</p> <p>[Communication；情報収集・意見調整・発信]</p> <p>(1) 多様性理解 人の心や行動の共通性と個性を理解し、多様な文化や価値観を受け容れ、尊重しながら共生・協働できる。</p> <p>(2) コミュニケーション力 人の心や行動の理解を踏まえ、他者と意見を交わし、調整しながら課題解決に協働できる。</p> <p>[Consideration；熟慮・考察・思いやり]</p> <p>(3) 課題発見・解決力 課題意識を持って現状を分析し、心理学の知識や技能を活用して、解決案を構想・実行できる</p> <p>(4) 専門的知識・技能の活用力 心理学に基づく理論や分析技能を活用できる。</p> <p>[Commitment；参画・貢献]</p> <p>(5) 自律性 目標達成のために意欲的にかつ責任をもって行動できる。</p> <p>(6) 社会的貢献性</p> |

主体的・積極的に社会や他者に対して貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）
<https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html>

心理学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫しながら達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

心理学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成されており、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、科学的思考に基づいた心理学的理解と実践力を育成します。

・体系的な編成

科目にはナンバリングを行い、履修の優先度を明示。基礎から応用へ段階的に学べるよう工夫しています。

・実践的な学び

教室での学びと現場での経験を結びつけ、理論と実践を統合します。

(1) 基盤教育科目

大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます：

・Communication 科目群

語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。

・Consideration 科目群

「人間学」や「SDGsと持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・Commitment 科目群

国内外での経験学習（グローバルスタディ、サービラーニング、コーオプ・プログラム）を通じて、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

心理学の理論や知識を基盤として、心と行動の理解や社会課題への対応力を身につけます：

・1年次に心理学の基礎知識を学び、希望や適性に応じて以下の専攻を選択します：

(ア) 犯罪心理学専攻

犯罪者心理や再犯抑止、防犯について学びます。

(イ) 臨床心理学専攻

心の問題を抱えた人々への支援や円滑な人間関係の方法を学びます。

(ウ) 災害心理学専攻

災害被害者の支援や防災・減災に役立つ心理学を学びます。

(エ) 産業・消費者心理学専攻

商品開発や広告デザインなど、ビジネスや日常活動に応用できる心理学を学びます。

・2年次以降、専攻ごとに履修科目を体系的に学び、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

・グループワークやディスカッションを活用し、学生が主体的・能動的に学べる環境を提供します。

・サービラーニングやコーオプ・プログラム、グローバルスタディなどの経験学習を通じて、課題発見・解決能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

・学期中・学期末に複数回の評価を行い、答案やレポートを返却して学習課題を明確にします。

・学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて理解を深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

- ・生成AIを授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断力を養います。
- ・LMSを利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

- ・学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

- ・各科目では、テスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。
- ・学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握して補習やフィードバックを提供します。
- ・学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認

- ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。
- ・教員との面談を通じて、成長を確認し、次の学修目標を設定します。

(3) 2年次終了時の到達確認試験

- ・2年次終了時に、「卒業研究」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。
- ・不合格の場合は再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究による総合的評価

- ・人の心や行動など心理学に関わる課題をテーマとする「卒業研究（必修）」を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。
- ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html>

（求める学生像）

心理学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

(1) 知識・技能

- ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。
- ・国語（現代の国語、言語文化）、英語での基礎的な言語運用能力（英検3級程度）及び数学（数学I・数学A）の基礎的な知識を身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・社会の身近な問題について筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

(3) 主体性・多様性・協働性

- ・安全で安心な社会の実現に貢献したいという意欲を持ち、心理学を学び、その知見を活用したいという意欲がある。
- ・グループ学習や課外活動、ボランティア活動の経験があり、他者と協力して課題を解決することができる。

(4) 入学前教育への取り組み

- ・eラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。

| |
|--|
| 学部等名 社会学部社会学科 |
| 教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html |
| 社会学の視点とデータサイエンスの基礎知識を身につけ、データにもとづく思考力と問題解決力を持ち、グローバル化した現代社会で活躍できる人材を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/sociology/3policy.html |
| 社会学科では、126単位の修得と必修条件を満たし、以下の要件を備えた者に学士（学術）の学位を授与します。この基準では、社会学とデータサイエンスに関する専門知識と技能、グローバルな視野に立った教養を基盤とし、「学校法人濱名山手学院の教育ミッション（Communication、Consideration、Commitment）に基づく本学教育目標の6つの能力及び資質を総合的に活用して、広く社会に貢献できる素養を持つことを求めています。 |
| 6つの能力・資質 [Communication；情報収集・意見調整・発信] (1) 多様性理解 多様な社会的背景や価値観を理解し、違いを尊重しながら行動できる。 (2) コミュニケーション力 他者との対話や交渉で、根拠に基づいた論理的な主張ができる。 [Consideration；熟慮・考察・思いやり] (3) 課題発見・解決力 社会のさまざまな事象に関する課題を発見し、論理的に解決・改善を提案できる。 (4) 専門的知識・技能の活用力 社会を理解するために、社会学の知識や社会調査、データ分析の手法を適切に活用できる。 [Commitment；参画・貢献] (5) 自律性 集団や組織において自らの役割を自覚し、責任を持って行動できる。 (6) 社会的貢献性 他者を尊重し協働しながら、集団・組織の目的達成に貢献できる。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/sociology/3policy.html |
| 社会学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識や技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫しながら達成状況を評価していきます。 |
| 1) 教育内容 社会学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成され、基礎から応用へ段階的に学べるように編成されています。これにより、社会的視点とデータサイエンスの技能を兼ね備えた実践的な人材を育成します。 |
| ・体系的な編成 科目にはナンバリングを行い、履修の優先度や内容の難易度を明確化。段階的な学びを支援します。 |
| ・実践的な学び 教室での学びに加え、社会調査やデータ活用など、現場での実践を重視します。地域や企業との連携プログラムを通じて理論と実践を統合します。 |
| (1) 基盤教育科目 大学での学びや卒業後の生き方の基盤を形成するために、以下の内容を学びます： |
| ・Communication 科目群 語学（英語・第2外国語）、ICTスキル、リーダーシップなどを学び、グローバル社会でのコミュニケーション力を養成します。 |

・ Consideration 科目群

「人間学」や「SDGs と持続可能性」を中心に、社会的課題を科学的視点で考えます。また、データサイエンスの知識やスキルも習得します。

・ Commitment 科目群

国内外の経験学習（グローバルスタディ、サービ斯拉ーニング、コーオプ・プログラム）を通じ、多文化共生の視野を広げ、社会課題への対応力を養います。

(2) 専門教育科目

社会学とデータサイエンスを基盤に、以下の3専攻で専門的な学びを提供します：

(ア) 共生社会専攻

日本や諸外国の「共生」について学び、社会調査を通じて具体的な課題解決を目指します。

(イ) 文化・メディア専攻

情報発信の知識やスキルを修得し、次世代クリエイターとしての能力を育成します。

(ウ) データサイエンス専攻

社会学的視点と ICT スキルを活用し、大量データを問題解決に応用できる人材を育てます。

・ 1年次

社会学の基礎や社会調査、データサイエンスの基本を学びます。

・ 2年次以降

専攻ごとに履修科目を体系的に配置し、専門性を深めます。

・ 教室外の活動

教室外での演習科目を通じて、現場経験と理論を統合する学びを提供します。

2) 教育方法

(1) アクティブラーニングの導入

・ グループワークやディスカッションを活用し、国籍や文化的背景を超えて学生同士が協働し、主体的・能動的に学べる環境を提供します。

・ サービ斯拉ーニングやコーオプ・プログラム、グローバルスタディ、ソーシャルデザイン実践演習を通じて課題発見・解決能力を養成します。実践的な経験を次の学びに活かします。

(2) フィードバックと振り返り

・ 学期中・学期末に複数回の評価を行い、答案やレポートを返却して学習課題を明確にします。

・ 学修ポートフォリオを活用し、自己評価や振り返りを行い、アドバイザー教員との面談を通じて学びを深めます。

(3) AI・ICTを活用した教育

・ 生成 AI を授業に活用して知識やアイデアを広げ、信ぴょう性や実現可能性の判断力を養います。

・ LMS を利用して予習・復習、小テスト、レポート提出、学修ポートフォリオ作成を支援します。授業は対面型、オンライン型、またはその併用で実施します。

(4) 計画的な学修

・ 学修フローチャートを提供し、学生が卒業後の進路を見据えて4年間の学修計画を立てることを支援します。計画の進捗を随時確認し、必要に応じて修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

(1) 形成的評価と総括的評価

・ 各科目では、テスト、レポート、プレゼンテーションを通じて学修成果を評価します。

・ 学期中に形成的評価を行い、学生の理解状況を把握して補習やフィードバックを提供します。

・ 学期末には総括的評価を行い、成績はこれらを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

| |
|---|
| <p>(2) KUISs 学修ベンチマークによる到達度の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半年に一度、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力及び資質の到達度を、学生が自己評価を行います。 ・教員との面談を通じて成長を確認し、次の学修目標を設定します。 <p>(3) 2年次終了時の到達確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次終了時に、「卒業研究 I」「卒業研究 II」及び「卒業論文・制作」を履修する基礎レベルが修得できているかを評価する「到達確認試験」を実施します。 ・不合格者には再試験を課し、その合格を求めます。 <p>(4) 「卒業論文・制作」による総合的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「卒業論文・制作（必修）」を通じて、4年間の学修成果を総合的に評価します。 ・評価は複数教員が共通の評価指標（ルーブリック）を用いて行います。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html</p> |
| <p>（求める学生像）</p> <p>社会学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいた教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。（高等学校での修得が望ましい水準）</p> <p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で幅広い教育課程を修得している。 ・日本語運用能力（現代の国語、言語文化）を修得し、漢字検定 3 級程度以上の基礎力を身につけている。 ・基礎的英語力（英検 3 級程度）及び基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。 <p>(2) 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の身近な問題について筋道を立てて考え、その結果を説明する能力を持っている。 ・自分の経験や考えを的確に表現し、他者に伝えることができる。 <p>(3) 主体性・多様性・協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のさまざまな事象や問題に関心を持ち、それらの関係性や解決策について考える意欲を持っている。 ・他者と積極的に関わり、対話を通じて理解を深めようとすることができる。 <p>(4) 入学前教育への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e ラーニングプログラムを通じて基礎的知識を身につける入学前教育に、最後まで取り組むことができる。 |
| <p>学部等名 国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html</p> |
| <p>グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html</p> |
| <p>1. 学位授与の方針【DP】</p> <p>グローバルコミュニケーション学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、国際コミュニケーションの場面で活用できる英語運用能力、国際地域文化あるいはビジネスに関する知識、国際的な視野、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用しながらグローバルに活躍できる人物に学士（英語</p> |

学) の学位を授与します。

(1) 自律的で主体的な態度 (自律性)

自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。

(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性)

社会や集団のために貢献し、より多くの人が他者と協働し参加するような貢献ができる。

(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解)

自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。

(4) 問題発見・解決力

様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。

(5) コミュニケーションスキル

日本語・英語双方の言語で必要なコミュニケーションをとることができる。特に、英語力については2年次終了までに TOEIC600 点以上、CEFR*-B2 レベル程度を達成する。

*ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages) を指す。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。

(6) 専門的知識・技能の活用力

アジア太平洋地域を中心とした国際社会に関する情報をリアルタイムで把握するとともに、その情報を自らの立場で専門的知識を用いて活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 <https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html>)

2. 教育課程編成の方針【CP】

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT (情報通信技術)、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、コミュニケーションツールとしての英語力を強化しながら、アジア太平洋地域を中心に、国際的な視野で物事を理解し、行動するための知識や方法を学びます。

- ・1~2 年次では、英語運用能力の育成を行い、4 技能の基礎を固めます。1 年終了時 TOEIC450 点取得 (海外留学条件)、2 年終了時 TOEIC600 点取得を目指して、段階的に

英語力を強化します。

- ・1 年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の2つの専攻を設定します。

1) 国際地域文化専攻

様々な文化的・社会的背景を理解しながら国際社会で活躍するための情報や知識について学びます。

2) ビジネスコミュニケーション専攻

国際的なビジネス現場で実践的に活躍するための知識や教養について学びます。

- ・2 年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・2 年次秋学期には、2 専攻に共通して、1 学期間以上海外の協定校に留学する「課題研究（グローバルリサーチ）」を履修します。
- ・3 年次以降はそれまでに学んだ専門的な内容をさらに発展的に学ぶための科目を履修します。
- ・希望する場合は中高教職免許、また日本語教員養成の修了証取得のための科目を履修します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 英語運用能力をモニタリングします

1 年終了時 TOEIC450 点以上、2 年終了時 TOEIC600 点以上（CEFR-B2 レベル）の達成を目標に、自分のレベルに応じた科目を履修していきます。

(3) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

課題研究（グローバルリサーチ）、サービスラーニング、インターンシップといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(4) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答えは可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(5) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用します。

(6) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションな

どを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせることで多面的・総合的にを行います。

- (2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します
2年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します
4年間の学修成果は、国際コミュニケーションに関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

求める学生像

本学科は、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

高等学校での修得が望ましい水準

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定3級程度以上）を身につけている。
- (3) 基本的な英語力（英検準2級程度）を身につけている。具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことについて表現したり、まとまった英文を読んで理解したり、書いたりできる。
- (4) 基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (5) ビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (6) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。
- (7) 国際社会においてビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した分野で活躍したいという意欲がある。
- (8) 海外留学に積極的に取り組む意欲がある。

[入学前教育]

- (9) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

| |
|---|
| <p>学部等名 国際コミュニケーション学部 観光学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html</p> |
| <p>英語の運用能力およびコミュニケーション能力と観光産業に必要な知識と実践的スキルを身につけ、多様化する観光ニーズを科学的に分析・調査し、観光事業における新たなサービスを企画できる人材を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html</p> |
| <p>1. 学位授与の方針【DP】</p> <p>国際コミュニケーション学部観光学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、学校法人濱名山手学院の教育ミッションにもとづき、グローバルな視野にたった教養と観光学の専門的知識・技能及び以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、観光産業において活躍できる人物に学士（観光学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。</p> <p>(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） より多くの人に他者との協働を促し、社会や集団の目的達成に貢献できる。</p> <p>(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは異なる考え方や価値観を尊重し、多様な社会的・文化的背景を受け容れながら行動できる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。</p> <p>(5) コミュニケーションスキル 日本語・英語双方の言語で必要なコミュニケーションをとることができる。特に、英語力については卒業までに TOEIC600 点以上、CEFR*-B2 レベル程度を達成する。 *ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）を指す。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。</p> <p>(6) 専門的知識・技能の活用力 マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能と活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html</p> |
| <p>2. 教育課程編成の方針【CP】</p> <p>本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。</p> <p>1) 教育内容 本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、</p> |

基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。
科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。
基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、KUISs ベーシックス、コモンベーシックス、リベラルアーツの各科目群において、以下の内容について学びます。

- ① KUISs ベーシックス科目群では、初年次教育を通して大学への適応をはかり、批判的な思考を養いつつ、情報の分析やレポートの書き方といった大学における基本的な学習スキルと、ディスカッションの進め方やリーダーシップの在り方など社会に出てからのコミュニケーションスキルを修得します。さらに、すべての学生が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行います。さらにそれらの学びを活かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。
- ② コモンベーシックス科目群では、外国語科目とその他の科目を通じて、基礎的なコミュニケーションスキルを獲得します。また加速度的に進化する情報化社会へ対応するために、基礎的な ICT（情報通信技術）スキルを身につけます。
- ③ リベラルアーツ科目群では、「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。
- ④ DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ⑤ 経験学習として、サービスラーニングまたはグローバルスタディの履修を選択必修とし、国内外で社会貢献活動に参加します。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、アジア太平洋地域を中心に、国際的な視野で物事を理解し行動するために、コミュニケーションツールとしての英語力を強化しながら、観光ビジネスに関する専門的な知識・技術を学びます。そのために、観光学および経営学を主とする「基礎科目群」と3つの専攻（観光ビジネス専攻、ホテル・ブライダル専攻、エアライン専攻）に関する「基幹科目群」、およびさらに発展的な学修につなげる「展開科目群」を編成します。

- ・語学教育においては、1～2年次では、英語運用能力の育成を行い、4技能の基礎を固めます。習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗度を確認し、1年終了時 TOEIC450点取得（海外留学条件）、卒業までに TOEIC600点取得を目指して、段階的に英語力を強化します。また選択語学として中国語を重点的に配置し、2年次より科目を基礎から段階的に設定し、習熟度に合わせた履修による語学力の育成をはかります。
- ・1年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の3つの専攻を設定します。
 - 1) 観光ビジネス専攻
観光を経営学的視点から捉え、既存の課題を解決し、新たな観光事業を企画立案する方法を学びます。
 - 2) ホテル・ブライダル専攻
ホテル・ブライダルビジネスの専門的な知識・技能を身につけるとともに、マーケティングの視点と手法を活かした現場のマネジメントについて学びます。
 - 3) エアライン専攻
エアラインビジネスの専門的な知識・技能を身につけるとともに、マーケティング

の視点と手法を活かした現場のマネジメントについて学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・3年次以降はそれまでに学んだ専門的な内容をさらに発展的に学ぶための科目を履修します。

(3) 総合演習科目

総合演習科目は、2年次以降に少人数の専門ゼミナールに分かれて、教室内での講義型学習と教室外での経験型学習を総合し、実践を通じて専門的な知識・技能を活用する能力を身につけます。

- ・2年次と3年次に履修するプロジェクトマネジメント科目では、企業や外部団体と連携し、プロジェクトの実践を通じて課題発見・解決の手法と専門的な知識・技能の活用について学びます。
- ・4年次で履修する卒業研究では、身につけた専門的な知識・技能を活かし、大学での学修を総合した集大成としての卒業研究を作成します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービスマーケティング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実社会における課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を通じて学びを深めます。さらに、そこで得た経験を、「ふりかえり」を通じて教室内の講義型授業と連動させ、さらに次の経験学習につなげることで学びの内化・外化を活性化します。

(3) PBL（問題解決型学習）を取り入れます

企業や行政・外部組織等との協働によるPBLを取り入れます。チームでプロジェクトを運営し、情報の収集と分析、企業や外部団体との連携、問題の発見と解決、そして連携先に対するプレゼンテーションまでを実践することで、ビジネスコミュニケーション力を身につけ、大学での学びの総合化をはかります。

(4) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(5) ICTシステムを利用した教育方法を取入れます

eラーニングシステムおよびeポートフォリオシステムを利用します。
eラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。
eポートフォリオは、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けや次の目標設定に利用します。

(6) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(7) 自己評価とふりかえりをします

目標・記録・評価の総合的ツールであるeポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。さらに、

各学期末に KUISs 学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を深めます。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

- (1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います
各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせ、多面的・総合的に評価を行います。
- (2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します
2年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行い、その合格を進級要件とします。
- (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します
4年間の学修成果は、観光に関わる課題を扱った「卒業研究」（必修）によって総合的に評価を行います。在学期間が3年以上に達し、履修規程に定めるGPAと修得単位数の条件を満たすことに加え、上記「到達確認試験」の合格によって、「卒業研究」の履修が認められます。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 <https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

求める学生像

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

高等学校での修得が望ましい水準

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定3級程度以上）を身につけている。
- (3) 基本的な英語力（英検準2級程度）を身につけている。具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことについて表現したり、まとまった英文を読んで理解したり、書いたりできる。
- (4) 基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (5) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (6) 観光について興味があり、観光ビジネスについての知識や技能を学び、社会で活かしたいという意欲がある。

(7) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

(8) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|------------------------------------|--------|------------------------------|-------------|----|----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 4人 | — | | | | | 4人 |
| 心理学部 | — | 9人 | 4人 | 4人 | 0人 | 0人 | 17人 |
| 社会学部 | — | 6人 | 6人 | 0人 | 0人 | 0人 | 12人 |
| 経営学部 | | 14人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 19人 |
| 保健医療学部 | | 8人 | 8人 | 9人 | 4人 | 0人 | 29人 |
| 教育学部 | | 8人 | 9人 | 3人 | 0人 | 0人 | 20人 |
| 国際コミュニケーション学部 | | 11人 | 3人 | 1人 | 2人 | 0人 | 17人 |
| グローバル学部 | | 4人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | | 学長・副学長以外の教員 | | | | 計 |
| 0人 | | | 107人 | | | | 107人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法：大学のHP上で公表（学部学科の教員紹介ページ） | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|--------------------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 教育学部 | 90人 | 78人 | 86.7% | 540人 | 333人 | 61.7% | 人 | 6人 |
| 経営学部 | 200人 | 250人 | 125.0% | 765人 | 799人 | 104.4% | 20人 | 13人 |
| 国際コミュニケーション学部 | 人 | 人 | % | 465人 | 309人 | 66.5% | 人 | 8人 |
| グローバル学部 | 125人 | 132人 | 105.6% | 125人 | 132人 | 105.6% | 人 | 人 |
| 心理学部 (人間科学部) | 125人 | 160人 | 128.0% | 500人 | 542人 | 108.4% | 人 | 7人 |
| 社会学部 | 50人 | 41人 | 82.0% | 350人 | 201人 | 57.4% | 人 | 13人 |
| 保健医療学部 | 100人 | 84人 | 84.0% | 400人 | 362人 | 90.5% | 人 | 人 |
| 現代社会学部 | 人 | 人 | % | 人 | 6人 | % | 人 | 人 |
| 合計 | 690人 | 745人 | 108.0% | 3145人 | 2684人 | 85.3% | 20人 | 47人 |
| (備考) 国際コミュニケーション学部、人間科学部、現代社会学部は募集停止 | | | | | | | | |

| b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|------------------------|----------------|---------------|-------------------|----------------|
| 学部等名 | 卒業生数・修了者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 教育学部 | 112人 (100%) | 人 (%) | 101人 (90.2%) | 11人 (9.8%) |
| 経営学部 | 161人 (100%) | 3人 (1.9%) | 139人 (86.3%) | 19人 (11.8%) |
| 現代社会学部 | 6人 (100%) | 人 (%) | 3人 (50.0%) | 3人 (50.0%) |
| 国際コミュニケーション学部 | 80人 (100%) | 2人 (2.5%) | 62人 (77.5%) | 16人 (20.0%) |
| 社会学部 | 60人 (100%) | 4人 (6.7%) | 49人 (81.7%) | 7人 (11.7%) |
| 心理学部 | 108人 (100%) | 4人 (3.7%) | 90人 (83.3%) | 14人 (13.0%) |
| 保険医療学部 | 86人 (100%) | 人 (%) | 83人 (96.5%) | 3人 (3.5%) |
| 合計 | 613人 (100%) | 13人 (2.1%) | 527人 (86.0%) | 73人 (11.9%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-------------|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業・修了者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程</p> <p>シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目 ● 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など） ● 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など ● 履修制限がある場合の選抜の方法等 ● 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されている DP を踏まえ、主語を学生にして記載 ● 学習目標と DP との関連 下記のポイントについて記載 <ul style="list-style-type: none"> ① 学科の DP（ディプロマポリシー）との関連性について記載する。 ② 学習目標は客観的に評価することが可能な内容とする。 ③ 1つの文章に1つの目標を示す。（複文とならないように） ④ 評価の条件や基準を具体的に明示する。 ● 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となる URL や論文名 ● 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。 ● オフィスアワーの曜日時限についての記載。 <p>授業計画書の作成・公表時期</p> <p>シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われる全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。</p> <p>公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。</p> |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUISs 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定したKUISs学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価します。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6)に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多面的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

- ① 測定の方法(例:中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等)
- ② 基準の配分(例:テスト60%、レポート20%、毎回のコメント10%、eポートフォリオ10%)

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか(例:中間テスト(日時)、小レポート(毎回))を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

・成績評価は、授業途中の評価(中間試験等)だけでなく、総括試験、本試験など総合的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。

・出席点は評価に含めてはいけない(授業への出席は前提)。

・情意的領域の観点を評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考の際に資料としている。

◆ 成績評価と科目G P

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

成績評価(100点満点) 科目G P(グレード・ポイント)

90点、100点 ・ ・ ・ ・ ・ 4

| | |
|-------|--------|
| 80点 |3 |
| 70点 |2 |
| 60点 |1 |
| 60点未満 |0 |

◆ GPAの計算方法

科目GPに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA(グレード・ポイント・アベレージ) = \frac{(A科目GP \times A科目単位数) + (B科目GP \times B科目単位数) + (C科目GP \times C科目単位数) + \dots}{登録科目総単位数}$$

◆ GPAと学修指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期(夏・冬学期は含まない)GPAによって、履修登録の上限単位数が増減する。連続する2学期(夏・冬学期を除く)の各学期のGPAが共に1.00未満の者には、学部長あるいは学科長並びにアドバイザーがご家族・保証人同席の上で、厳重注意を行う。
- ② 入学以来の累積GPAが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積GPAが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、以下のいずれかの要件を満たした者は、「卒業研究」を登録することが出来る。
 - ア 直前の年間のGPAが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学習態度に改善があった者
 - イ 卒業研究登録資格認定試験に合格した者
 - ウ 休学期間を除く在学期間が3年6か月以上に達している者で、連続する春・夏学期または秋・冬学期において、当該期間のGPAが1.60以上かつ16単位以上を修得し、学習態度に改善があった者

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要な単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|---------------|------------------|-----------|----------------------|---------------------------------|
| 保健医療学部 | 看護学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| 教育学部 | 教育福祉学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| 経営学部 | 経営学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| グローバル部 | グローバル学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| 心理学部 | 心理学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| 社会学部 | 社会学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |
| 国際コミュニケーション学部 | グローバルコミュニケーション学科 | 126単位 | 有 | 直前の学期の GPAにより変動 半期20~25単位 |

| | | | | |
|----------------------------|------|--------|---|------------------------------------|
| 国際コミュニケーション学部 | 観光学科 | 126 単位 | 有 | 直前の学期の GPA により変動 半期 20~25 単位 |
| G P A の活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法 : | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法 : | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| 公表方法 : https://www.kuins.ac.jp/about/campus_guide/miki.html https://www.kuins.ac.jp/about/campus_guide/amagasaki.html https://www.kuins.ac.jp/about/campus_guide/kobeyamate.html https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/earthquake_resistance_rate.html |
|---|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|-------------|----------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 経営 | 経営 | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| 心理 | 心理 | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| 教育 | 教育福祉 | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| グローバル | グローバル | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| 国際コミュニケーション | グローバルコミュニケーション | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| | 観光 | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| 社会 | 社会 | 857,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 962,800 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |
| 保健医療 | 看護 | 1,278,000 円 | 200,000 円 | 302,000 円 | |
| | | 1,408,400 円 | - | 302,000 円 | 2024 年度入学生 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生一人ひとりの学修意欲や学修効果を高めるためのサポート体制が充実している。入学前のウォーミングアップ学習を足がかりにして、入学後はアドバイザー制度による細やかなフォロー、研究室オフィスアワー、センターオフィスアワー、さらにはセンタープログラムの実施や、学生メンター制度、学修支援チューター制度を整備し、教員や上級生が日々の学生生活や学修への支援、資格試験対策等を実施している。 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生と真剣に向き合う“徹底した個別サポート”を進路選択に係る支援の土台としている。就職活動に関する学生一人ひとりの個人カルテを作成し、職員との対面相談だけでなくアドバイザー教員も交えて、メール・電話などを通じて学生一人ひとりに積極的に働きかけ、学生の希望や個性を最大限に尊重した支援を実現。また、特に就職準備が本格化する2年次秋学期からは、就職サポートガイダンスなども数多く設定し、集中的な準備を実施することで、採用活動の解禁直後から有利な就職活動を展開している。 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) *保健室 不慮のケガの手当てや、具合の悪い時の静養だけでなく、気軽に立ち寄り日常生活のさまざまな相談を聞くことができるようスタッフの体制を整えている。 *学生相談室 充実したキャンパスライフのための「なんでも相談室」として専門スタッフ（臨床心理士）を常駐、精神面の不調に関するカウンセリングに限らず、それ以外の日常生活で困ったことも何でも相談にのる組織として学生対応を行っている。 *心身の健康の維持に関わる予防的活動 保健室では栄養相談や各種講演会、学生相談室は毎月1回、昼休みにオープンなグループ活動を実施しています。その他、保健室、学生相談室ともに定期的な便りを発行し、心身の健康に関する情報を発信している。 |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の取組概要

本学では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度に沿ったカリキュラムを作成し、全学的データサイエンス教育プログラムを実施。

2023.8認定

関西国際大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 取組概要

社会学部 全学生対象

高度データサイエンス人材育成プログラム（応用基礎レベル）

リテラシーレベルで身につけた知識・技能を基礎とした発展レベルの数理・データサイエンス・AIを理解し、適切に活用して、社会に有益な知見を提供することができるようになることを目指す。

本学 全学部生対象

データサイエンス副専攻（リテラシーレベル）

文理問わず、全ての大学生に求められるリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIを理解し、適切に活用できるようになることを目指す。

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度とは…

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とします。



(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------------------|---------------|
| 学校コード (13桁) | F128310108954 |
| 学校名 (〇〇大学 等) | 関西国際大学 |
| 設置者名 (学校法人〇〇学園 等) | 学校法人 濱名山手学院 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--|------------|-------------|-------------|-------------|
| 支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。 | | 367人（ 13 ）人 | 387人（ 45 ）人 | 394人（ 50 ）人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 229人 | 208人 | |
| | (うち多子世帯) | (0人) | (0人) | |
| | 第Ⅱ区分 | 75人 | 80人 | |
| | (うち多子世帯) | (0人) | (0人) | |
| | 第Ⅲ区分 | 50人 | 54人 | |
| | (うち多子世帯) | (0人) | (0人) | |
| | 第Ⅳ区分（理工農） | 0人 | 0人 | |
| | 第Ⅳ区分（多子世帯） | 13人 | 45人 | |
| | 区分外（多子世帯） | 0人 | 0人 | |
| 家計急変による 支援対象者（年間） | | | | 一人（ 0 ）人 |
| 合計（年間） | | | | 397人（ 50 ）人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | |
|---|--|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 一人 | 人 | 人 |
| 修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当) | 一人 | 人 | 人 |
| 出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況 | 一人 | 人 | 人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。 | 一人 | 人 | 人 |
| 計 | 14人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。） | |
|--|----|
| 年間 | 0人 |
| 前半期 | 人 |
| 後半期 | 人 |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 一人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 一人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|-------------|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| GPA等が下位4分の1 | 一人 | 人 | 人 |

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当) | 一人 | 人 | 人 |
| GPA等が下位4分の1 | 21人 | 人 | 人 |
| 出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況 | 28人 | 人 | 人 |
| 計 | 29人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。